

## 「浙江大学派遣参加報告書」

京都大学法学部 1 年 (氏名) 高橋 直暉

- ① この短期留学で一番よかった点は、現地の方と中国語で会話する機会に恵まれていたことだ。授業で使われる言語はほぼすべて中国語。また、食堂、レストラン、スーパー、チケット売り場などなど、日常生活の様々な場面でも中国語を聞き、話さなければならなかった。はじめは英語が通じるものだと思っていたが、ほとんどの場面で通じず困惑した。しかし、どうやら人間はある言語を話さなければ生きていけない状況に身を置いたとき、その言語を話せるようになるようだ。徐々に中国語で現地の方とコミュニケーションをとれるようになり、土産店で値段交渉ができるまでになった。上達するにつれ、中国語への愛着は増すばかり。海外で生活し、現地の方と会話することに大きな意義を感じた。留学、中国語学習、国際理解に対して意欲が高まったのは言うまでもない。
- ② このプログラムで最も印象に残っている経験は2つある。1つ目は海外の厳しさを痛感する経験だ。宋城というテーマパークで中国の時代劇を見て興奮気味の日本の大学生たち。外に出てみるとかわいい動物をあしらったカートが。すでに10人を超える留学生が乗っていた。大学生たちが子供用のカートに乗って騒いでいる。タダという声も聞こえてくる。私は迷わず飛び乗った。小回りが利き前にも後ろにも進める機能性に感心する。私が乗ってから5分後くらいであっただろうか。何やら様子がおかしい。大学生の嘆きが聞こえる。なんとカートが停止した人から順番にお金を取られていたのだ。その額30元(500円ほど)。当然私も徴収された。考えてみれば、あれがタダなはずがない。思考力が鈍っているとき、海外では必ずつけこまれる。そのことを学んだ夜だった。
- 2つ目は中国の方のやさしさを感じた経験だ。私が休日に上海博物館を訪れた際、記念写真を撮ってもらうことにした。相手は笑顔一つ見せない警備員。正直断られると思ったが、勇気を出してお願いしてみた。わざわざ中国まで来て躊躇すべきではない。請你拍照片。すると彼は、博物館入り口の警備という業務をさしおいて私たちのお願いを引き受けてくださった。ノリノリでアングルを変えながら5、6枚の写真を撮ってくださった。中国語でお願いができたこと、それとなにより、中国の方のやさしさに触れられたことがうれしかった。
- ③ 平日は、午前中に3時間ほど授業をうけて午後にボランティアの方の引率についていき、大学の外で様々な活動をする、というのが基本的な流れ。主な活動は、商店街での買い物、レストランでの食事、企業参観、ナイトショーの鑑賞、博物館巡り、浙江大学の学生との研究発表だった。休日は単独行動禁止という条件があったが基本的に自由で、グループで行きたいところに行った。
- ④ この短期留学で中国語でコミュニケーションをとる経験を積めたのは、今後の進路の幅を広げる意味でも有意義だった。中国語を使う職業も検討していきたいと考えている。